

2023 年度の活動報告

総務

(1) 会員数

- ・ 2023 年度は入会者 15 名、退会者 4 名であった。年度末会員数は 2022 年度より 11 名増の 80 名となった。うち女性会員は 22 名である。
- ・ 入会者 15 名(敬称略)
森田愛 (4 月 3 日付) 荒木元世 (4 月 4 日付) 小寺 清 (4 月 4 日付)
高田雄輝 (7 月 1 日付) 赤堀淳起 (7 月 7 日付) 本田恵理 (7 月 13 日付)
森寫洋子 (8 月 28 日付) 相川明子 (9 月 4 日付) 乙部尚子(10 月 10 日付)
澤田直孝 (10 月 12 日付) 国吉竜太 (11 月 9 日付) 鈴木智良 (12 月 4 日付)
浅井 梢 (1 月 5 日付) 保科研吾 (2 月 5 日付) 徳成武勇 (2 月 26 日付)
- ・ 退会者 4 名 (3 月 31 日付)
豊間根則道氏 黒田次郎氏 小川亮氏 中沢賢治氏

(2) 年会費収入

2023 年度の年会費納入者は 82 名、収入額(2022 年度の前納金 16,000 円を含む)は 313,500 円と、2022 年度の 296,000 円に比べて 17,500 円の増収となった。

(3) 会員紹介

SRID Newsletter「新会員紹介」で、森田愛会員が 2023 年 8 月号『「聴く」という行為が持つ力」、荒木元世会員が 2024 年 2 月号「世界は広いから楽しい」で自己紹介した。

全体行事

(1) 第 50 回年次総会 (対面とオンラインで開催)

- ・ 2023 年度の総会は 4 月 19 日(水) 19:30～21:15 に JICA 地球ひろば 201AB 会議室で対面と Zoom によるハイブリッド方式で開催した。参加者は 22 名(うち来場者 13 名、オンライン参加者 9 名)であった。事前に議案書を配布し、当日は拍手による採決を行った結果、いずれの議案も異論はなく、全会一致で可決された。
- ・ 神田前会長より、会員、幹事の協力により 4 年間の任期を無事終えられたことに対する謝辞があった。この間、多くの期間がコロナ禍のために活動はすべてオンラインで開催するなど制約が多かったが、海外に在住する会員ともネットワークでつながることができた、というメリットもあった。また活動の中では、キャリア開発研修事業が軌道に乗り、発展したことは喜ばしい、との発言があった。

(2) 新会員歓迎会（対面で開催）

- ・ 2023年9月18日(敬老の日)に2020年1月27日の新年会以来、3年半ぶりに新会員歓迎会を兼ねて懇親会を開催した。場所は銀座6丁目の中国薬膳料理レストラン「星福(シンフウ)」。参加者は新会員6名を含む14名。自己紹介を通じてお互いを知り合うと共に、旧交を温めた。Newsletter 10月号(No.533)に概要と写真を掲載した。

幹事会

第1回幹事会

5月10日(水)「勉強会」の開設に際し、検討すべきテーマについて議論した。

第2回幹事会

6月14日(水)「勉強会」に関するBrainstorming会合を開くことにした。

第3回幹事会

7月12日(水) Brainstorming会合の参加者の中から勉強会の発起人を募集し、企画書を作成して幹事会の承認を得ることになった。

第4回幹事会

8月9日(水) 勉強会の開始に向けて、発起人より提出された企画書案について議論した。事務局より会員間の懇親を兼ねた新会員歓迎会の提案があり、9月18日に開催した。

第5回幹事会

9月13日(水) SRID ジャーナル第26号の特集として、SDGs 中間年での評価、内戦下の大規模自然災害、TICAD30周年記念「アフリカ特集」などが提案された。

第6回幹事会

10月11日(水) 新会員歓迎会・第1回勉強会の報告、第2回勉強会・第12回サロンの予定、年明けに実施予定の第6回フォーラム・IDPC研修について協議した。

第7回幹事会

11月8日(水) 各活動の報告と予定、懇談会の録画視聴について検討した。

第8回幹事会

12月13日(水) 各活動の報告と予定に加え、2024年度のSRID創設50周年記念行事について協議した。

第9回幹事会

1月10日(水) IDPC研修の受講生の応募状況、第6回SRIDフォーラムの検討テーマ、SRID創設50周年記念行事の企画等について意見交換した。

第10回幹事会

2月14日(水) 第6回フォーラム、50周年記念行事、第51回年次総会について協議した。50周年記念行事に関して会員の意見を聴くために、アンケート調査を実施することにした。

第11回幹事会

3月13日(水) 第6回フォーラムのプログラム、及び実施要領を確認した。第50回年次総会議案書(1次案)について検討した。

第12回幹事会

4月10日(水) 第51回年次総会議案書(最終案)を確認した。50周年記念行事に関するアンケート調査の回答(提案)への対応を協議した。

懇談会 (オンラインで開催)

- ・ コロナ禍の為に2020年度よりオンライン開催とした懇談会は、2023年度目標の計4回の開催ができた。毎回、SRID会員25名程度を含む、定員100名を超える参加申し込みがあり、SRIDの対外発信プラットフォームの一つとして、引き続き定着している。
- ・ オンライン開催と合わせて、グーグルフォームによる懇談会参加申込を採用していることで、幹事の負担が大幅に軽減されている。さらに、グーグルフォーム書式内にSRID入会の有無、及びSRIDジャーナル配信希望とキャリア開発塾カウンセリング受講希望に関する質問を入れていることで、それぞれの申込増加に繋がっていると思われる。
- ・ 以前の対面懇談会後に開いていた講師を囲むネットワーク懇親会は、オンライン開催のため残念ながら開催できていない。懇談会報告は引き続きそれぞれ直近のニュースレターに掲載した。(小林_文)

第1回懇談会

7月18日(火) 講師は下村恭民氏(法政大学名誉教授)。テーマは「日本型開発協力の形成・変容・後退そして今後」。

第2回懇談会

9月19日(火) 講師は小寺清会員(ウォーターエイド・ジャパン理事長)。テーマは「複合危機下の2020年代の開発協力を考える」。

第3回懇談会

11月21日(火) 講師は鈴木博明会員(世銀コンサルタント)。テーマは「Knowledge Bankとしての世界銀行:リサーチを通じてグローバルスケールのインパクトを引き起こす」。

第4回懇談会

2月20日(火) 講師は石井菜穂子氏(東京大学理事・元 GEF(地球環境ファシリティ)・CEO)。テーマは「グローバル・コモンズー私たちの地球ーを守り育むために」。

SRID フォーラム (オンラインで開催)

- ・ 第6回 SRID フォーラムは、2024年3月9日(土)12時~15時(日本)、13時~16時(PNG)、9時~12時(バングラデシュ)、5時~8時(トルコ)、4時~7時(ナイジェリア、イタリア)、3月8日(金):22時~25時(ワシントン)、にオンラインで開催した。
- ・ ロシアのウクライナへの侵攻が長期化する中、パレスチナ問題の再燃も起こり、状況は更に不安定化、複雑化している。国連による安全保障を前提とし、SDGs に代表される貧困削減、福祉の向上、保健や環境の保全を目標としてきた開発協力は裏面に追いやられている観がある、改めて開発協力の現在位置を明らかにするために、「混迷する世界と SDGsー開発協力の現在」をテーマとして、3つのパネルを設定した。
- ・ パネル1では「SDGsから世界を見る」というテーマのもとに、林薫会員の「SDGs はなお語る意味があるのか?ーミャンマー:包摂性を欠いた国家の悲劇」、加藤珠比会員の「東アフリカ諸国の SDGs の実践 及びモニタリング」と題する発表のもとに、参加者間で議論した(モデレーター:松田教男)。
- ・ パネル2では「開発協力を取り巻く環境と開発の現状」というテーマで、乙部尚子会員が「Gender dimensions of the world of work under crises: Trends and challenges」、福島茂会員が「途上国大都市圏の空間管理と包摂的な都市開発: TOD とアフオーダブルな住宅政策との統合」と題する発表を行い、参加者間で討議した(モデレーター:玉置佳一)。
- ・ パネル3は途上国の開発の現状について途上国に赴任中の、大野政義(PNG);データから考える PNG 社会経済開発の課題、小森剛(バングラデシュ):バングラデシュに対する日本の協力、落合直之(フィリピンーミンダナオ島):フィリピンの開発の現状ーミンダナオを中心に、会員から発表の後、質疑を行った(モデレーター:神田道男)。
- ・ 最後に湊会長が、経済開発から社会開発、政治・ガバナンス開発へと課題が変化してきていること、歴史の重要性などを指摘しつつ全体の総括を行った。
- ・ 全体進行は松田代表と小林幹事が務めた。

ニュースレター

No.528(2023年4月号)

松田裕美: 自論公論「Data with Human Face」

神田道男: 第5回 SRID フォーラム報告「分断化する世界:国際協力の今後を探る」

No.529(2023年5月号)

山下道子: 第50回 SRID 年次総会開催報告

中野恭子: 会員報告「ジョモ・ケニヤッタ農工大学での調査の日々」

No.530(2023年6月号)

小林文彦: 旅の千夜一夜物語・第23夜「Buy an Island in Belize という妄想」

豊間根則道: 会員報告「エチオピアの炭」

No.531(2023年8月号)

小林 一: 自論公論「国際開発新時代」

小林文彦: 第1回懇談会報告 講師は下村恭民氏「日本型開発協力の 形成・変容・後退そして今後」

森田愛: 新会員紹介「『聴く』という行為が持つ力」

No.532(9月号)

山下道子: 勉強会報告「企画書、及びブレインストーミングの記録」

高橋正貴・阿部直美: 第11回サロン報告「パキスタン北部・タジキスタンの山岳風景」

福田幸正: 会員便り「アフガニスタンの友からの便り(二度目の亡命先から)に想う」

No.533(10月号)

小林文彦: 第2回懇談会報告 講師は小寺清会員「複合危機下の2020年代の開発協力を考える」

鈴木博明: 第1回勉強会報告「SRID 勉強会の開設に至る経緯について」

山下道子: 新会員歓迎会報告

藤村建夫: 旅の千夜一夜物語・第24夜「パスポートがない！」

No. 534(11月号)

松田教男: 第2回勉強会報告 「『オファー型協力』の本格導入に至る歴史的背景・経緯と課題」

高津俊司: 第12回サロン報告、報告者は高津俊司会員「鉄道技術者が観たインド」

山下道子: 会員事件簿 「自転車がない！—防犯カメラが語る真実」

No. 535(12月号)

砂川眞：自論公論「新しい国際開発金融組織(FOIP 基金)の創設について—インド太平洋地域の開発と紛争 抑止のために—」

小林文彦：第3回懇談会報告 講師は鈴木博明会員「Knowledge Bank としての世界銀行:リサーチを通じてグローバルスケールのインパクトを引き起こす」

神田道男・加藤珠比：第3回勉強会報告 ①「オファー型類似の開発協力の事例」、②「国際開発学会における新大綱に係る議論の概要報告」

高津俊司：会員著書の紹介「北海道および大陸の開拓に貢献した 鉄道技術者・大村卓一の生涯」

No. 536(2024年2月号)

菊地邦夫：自論公論「2024 新春にアメリカを想う」

松田教男・鈴木博明：第4回勉強会報告 ①「日本のODA 環境と主要ドナーの対外援助政策」、②「ジェフリー・サックス氏の国連安保理(2023年11月20日)での証言」

荒木元世：新会員紹介「世界は広いから楽しい」

藤村建夫：旅の千夜一夜物語・第25夜「比較サービス文化論」

No. 537(3月号)

本村雄一郎：自論公論「国際協力の案件実施の現場から」

小林文彦：第4回懇談会報告、講師は石井菜穂子氏「グローバル・コモンズ—私たちの地球—を守り育むために」

福田幸正：第5回勉強会報告「中東開発銀行」

小浜裕久：旅の千夜一夜物語・第26夜「世の中、不思議なことが沢山：『アルゼンチン経済開発調査』の唾然茫然」

SRID ジャーナル

(1) 編集委員会の開催

2023年度の企画・編集は湊直信編集委員長以下、佐藤桂子、高橋一生、玉置佳一、中島千秋、福田幸正、山岡和純の7名が担当した。編集会議を4月25日、7月3日、9月29日、10月26日、1月11日、4月3日の6回開催した。

(2) 第25号及び第26号の発行

- ・ 第25号を7月31日に発行した。特集のテーマは「激動する世界の中の『ODA大綱』について考える」。
- ・ 第26号を2024年1月25日に発行した。特集のテーマは「武力紛争と大国間の覇権争いの中で、自主性と結束を求める開発途上国の開発課題」。

(3) 外部配信者数の増加

2023年3月6日時点でのジャーナル登録者は615名と、順調に増加している。(湊)

キャリア開発事業

(1) 運営委員会

鈴木委員長以下、神田道男、小林文彦、浪川真悠子、藤村建夫、森田宏子、山岡和純、の7名が運営委員を務めた。運営委員会をオンラインで2024年3月に開催した。

(2) 事業の実施

以下の通り、ほぼ事業計画通り実施した。

- 1) 国際開発プロフェッショナル能力向上研修(IDPC): IDPC on MDBsをZoomで2024年1月13日、1月20日に実施した。
- 2) キャリア開発カウンセリング: 15名に対して実施した。
- 3) 開発分野で働く女性のためのフォーラム No.4を実施。
- 4) ロスターの作成・運用: 累積78名登録。今年度のIDPCをきっかけに、3名の現役若手がSRIDに参加。
- 5) 国際協力活動を行う学生団体を含めた他団体との連携: 実施せず。
- 6) キャリア開発に役立つ情報の提供: 「SRID キャリア開発」を3月と9月に配信。

表 A. 年度別キャリア開発事業実施状況

| 活動内容 | 2020 | | 2021 | | 2022 | | 2023 | |
|---------------|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|
| | 件数 | 参加者 | 件数 | 参加者 | 件数 | 参加者 | 件数 | 参加者 |
| 出張講座 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| IDPC 研修 | | | 1 | 12 | 2 | 16 | 1 | 21 |
| カウンセリング(注) | 20 | 20 | 28 | 28 | 26 | 26 | 15 | 15 |
| 女性 CDP フォーラム | | | 2 | 130 | 2 | 16 | 1 | 30 |
| 学生団体活動支援 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| SRID キャリア開発配信 | | | 2回 | | 2回 | | 2回 | |
| ロスター累積登録者数 | 13名 | | 31名 | | 47名 | | 78名 | |

(注) IDPC 受講生込み

事業予算の執行は IDPC 研修の独立採算を含め、収入限度内の支出となった。若干の余剰金が2024年度に繰り越された。詳細は事業会計報告の通り。(鈴木)

勉強会

Brainstorming 会合

7月 1 日(土) 「『日本の援助政策に係る勉強会』発足に向けたブレインストーミング提案書」(作成者:松田教男)に基づき、勉強会の発足に向けた Brainstorming 会合を開催。概要を Newsletter 9 月号に掲載。

第 1 回勉強会

9 月 25 日(月)検討テーマは、「『国際益』と『国益』のバランスの視点から見た『オファー型協力』」(発表者:鈴木博明)。概要を「日本の開発協力政策に係る勉強会」プロGRESSレポート No.1 として Newsletter 10 月号に掲載。

第 2 回勉強会

10 月 24 日(火) 検討テーマは、「『オファー型協力』の本格導入に至る歴史的背景・経緯と課題」(発表者:松田教男)。概要を Newsletter 11 月号に掲載。

第 3 回勉強会

11 月 28 日(火) 検討テーマは、①「オファー型類似の開発協力の事例」(発表者:神田道男)、②国際開発学会における新大綱に係る議論の概要報告(発表者:加藤珠比)。概要を Newsletter 12 月号に掲載。

第 4 回勉強会

12 月 20 日(水) 検討テーマは、①「日本の ODA 環境と主要ドナーの対外援助政策」(発表者:松田教男)、②「ジェフリー・サックス氏の国連安保理(2023 年 11 月 20 日)での証言」(発表者:鈴木博明)。概要を Newsletter 2 月号に掲載。

第 5 回勉強会

1 月 24 日(水) 検討テーマは「中東開発銀行」(発表者:福田幸正)。概要を Newsletter 3 月号に掲載。

第 6 回勉強会

2 月 27 日(火) 検討テーマは①「ミャンマー情勢について」(発表者:山下道子)、②「『Offer 型協力』に係る追加情報」(発表者:松田教男)。概要を Newsletter 4 月号に掲載。

第 7 回勉強会

3 月 26 日(火) 検討テーマは「昨今の世界情勢と途上国の現状その他」(発表者:松田教男)。概要を Newsletter 5 月号に掲載予定。

SRID サロン

第11回 SRID サロン

8月22日(火)報告①は、高橋正貴会員(世銀コンサルタント)による「パキスタン北部山岳地帯、カラコルム／ヒマラヤ山脈でのハイキング:歴史、文化に触れ、地域開発を考える」。報告②は、阿部直美会員(アイエムジー・コンサルタント)による「タジキスタンでのトレッキングの魅力」。概要をNewsletter 4月号に掲載。

第12回 SRID サロン

10月22日(火)高津俊司会員が「鉄道技術者が観たインド」について報告。概要をNewsletter 11月号に掲載。